



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレ ター 第680号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン
ターニューズレター 第680号. 京大東アジアセンターニューズレター
2017, 680: 1-5

ISSUE DATE:

2017-07-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226982>

RIGHT:

2017年7月24日発行 第680号

CONTENTS

戦国古戦場踏破実習で経営能力を磨く 小島 正憲	2
【中国経済最新統計】	5



京都大学 経済学研究科 東アジア経済研究センター (旧上海センター)
Center for East Asian Economic Studies, Graduate School of Economics, Kyoto university

Home 事業概要 組織構成 活動状況 最新情報 会員募集 お問い合わせ

最新情報

- 2014.10.07 【イベント】 「中国経済研究会」のお知らせ
- 2014.09.11 【イベント】 アジア自動車シンポジウムのお知らせ
- 2014.08.12 【お知らせ】 センター協会の解散と支援会への移行について
- 2014.07.14 【イベント】 第10回 アジア中吉車流通研究会
- 2014.07.14 【イベント】 中国経済研究会 (2014年度第3回)

more

News Letter

Vol. 539

2014.10.06

最新号

バックナンバー

Go more

研究会 シンポジウム・講演会・セミナー 会社説明会

会員募集 寄付のお願い

アクセス | リンク集 | プライバシーポリシー | サイトマップ

Copyright (C) 京都大学経済学研究科「京大東アジア経済研究センター」, All Rights Reserved.

戦国古戦場踏破実習で経営能力を磨く

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 今、なぜ、戦国古戦場踏破実習なのか？

私は30代のころ、元陸軍大尉に師事していたことがあり、そのとき、休みの日になると、先生に連れられて日本各地の戦国古戦場に行っていた。そしてそこで、戦国武将の心構えや心情を教えられた。それは、その後の私の経営者人生におおいに役だった。その古戦場踏破実習は、国内だけでは飽き足らず、海外にまで足を伸ばすことになり、ナポレオンの戦跡を訪ねて、フランス・イタリア・オーストリア・東ドイツ・チェコスロバキア・ロシア・エジプト・ベルギーなどを、先生の鞆持ちをしながら、3年かけて回った。38歳のとき、私はこれらの経験をまとめて、中部経済新聞に「経営者の能力論 歴史と兵法に学ぶ」（60回連載）を書いた。50代になって、私の主戦場が中国になってからは、毛沢東の長征の跡を、全部、踏破した。毛沢東が秋收蜂起のとき拘束された場所、安源炭鉱跡、西路軍の壊滅跡、延安の劉志丹の殺害現場などには、中国人でも行っている人は少ないだろう。

今、多くの戦国古戦場は忘れ去られようとしているし、現地を案内し、戦国武将の心情を経営者に必要な能力と重ね合わせながら、説明できる人もほとんど姿を消しつつある。私は70歳を迎えて現役を引退したが、まだまだ戦国古戦場を駆け抜く体力と、現地で戦国武将の生き様を語る知力を有している。しかし、私もいつ何時、この世から消え去ってもおかしくない年齢になってきた。私は今、この私の戦国古戦場踏破体験と経営者としての人生観を、できるだけ早期に、若者に受け継ぎたいと思っている。若きころ、経営学者から、「兵法経営など、現代の経営には役に立たない」といつも笑われた。しかし私は実際に、孫子や韓非子、マキャベリなどの論理を学び、それらを戦国古戦場で体験したことによって、海外ビジネス戦場で、華僑や印僑、ユダヤ商人などと互角に渡り合うことができた。おそらく現代経営学だけでは、それは無理だっただろう。

日本社会は、未曾有の超高齢社会を迎えようとしている。そして高齢者と若者の間で、世代間闘争が勃発することが予想されている。高齢者はそれを未然に防がねばならない。また高齢者は体力・気力・知力ともに、まだ現役並みであるにもかかわらず、社会での活躍の場を閉ざされている。それだからこそ高齢者は現役世代に席を譲りながら、同時に社会に貢献できる自らの席を作り出さねばならない。さらに老後の資金の心配をするのではなく、惜しみなく、若者たちにそれを還元するべきである。そのような高齢者のモデルケースを作り出すことが、今、高齢者に求められている。

2. 戦国古戦場踏破実習の目的

- ①戦国古戦場に立ち、当時の武将の気概や心情を体感し、経営者に必要な能力を学ぶ。
- ②忘れ去られて行く戦国古戦場を、現地を熟知している高齢者から、若者が学ぶ。
- ③高齢者は、若者の足手まといにならずに、戦国古戦場を踏破する体力と知力を養う。
- ④若者は、高齢者と共に戦国古戦場を踏破することで、高齢者との間の違和感を消す。

※戦国古戦場踏破実習の参加資格は、70歳台の高齢者（有料）、20歳台の若者（無料。場合によっては補助金支給）。

3. 戦国古戦場踏破実習計画

- | | | |
|-----|--------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | 桶狭間合戦 | 織田信長から「孤独をこよなく愛する力」・「決断力」・情報収集力」を学ぶ。 |
| 第2回 | 金ヶ崎の撤退・姉川の戦い | 織田信長から「撤退力」、「部下を見捨てる力」を学ぶ。 |
| 第3回 | 長島一向一揆との戦い・比叡山焼き討ち | 織田信長から「神仏を頼らない力」を学ぶ。 |
| 第4回 | 三方原の戦い | 徳川家康から「内省力」を学ぶ。 |
| 第5回 | 長篠の戦い | 織田信長から「革新力」を、武田勝頼から「後継者に必要な力」を学ぶ。 |
| 第6回 | 本能寺の変・山崎の合戦 | 織田信長から「油断・慢心」を、豊臣秀吉から「逆転力」を学ぶ。 |

第7回 伊賀越え 徳川家康から「撤退力」・「運命力」を学ぶ。

第8回 賤ヶ岳の戦い 豊臣秀吉から「人心掌握力」を学ぶ。

第9回 小牧・長久手の戦い 豊臣秀吉から「妥協する力」を、徳川家康から「持久力」・「先見力」を学ぶ。

第10回 小田原城攻め 北条軍から「成功体験を捨てる力」を学ぶ。

第11回 関ヶ原合戦 石田三成と徳川家康から「人心掌握力」を、参戦武将から「決断力」を学ぶ。

第12回 大阪冬・夏の陣 徳川家康から「執着力」を学ぶ。また徳川軍から「組織の弛緩」を学ぶ。

以上

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億 ^{ドル})	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6	19.4	2590	7.8	7.2	▲8.6	5.3	13.6	14.1
2014 年	7.4	8.3	12.0	2.0	15.2	3824	6.1	0.4	4.41	14.2	12.2	13.6
2015 年	6.9	5.9	10.7	1.4	9.7	6024	-9.8	-14.4	11.0	0.8	11.9	15.0
5 月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6 月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7 月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7
8 月		6.1	10.8	2.0	9.1	602	-5.6	-13.9	23.9	20.9	13.3	15.7
9 月	6.9	5.7	10.9	1.6	6.8	603	-3.8	-20.5	5.2	6.1	13.1	15.8
10 月		5.6	11.0	1.3	9.3	616	-7.0	-19.0	2.5	2.9	13.5	15.6
11 月		6.2	11.2	1.5	10.8	541	-7.2	-9.2	27.7	0.0	13.7	15.3
12 月	6.8	5.9	11.1	1.6	6.8	594	-1.7	-7.6	17.2	-45.1	13.3	15.0
2016 年												
1 月			10.3	1.8	18.0	633	-11.5	-18.8	14.1	-2.1	14.0	15.2
2 月			10.2	2.3		326	-25.4	-13.8	-11.3	-1.3	13.3	14.7
3 月	6.7	6.8	10.5	2.3	11.2	299	11.2	-7.4	26.1	4.0	13.4	14.7
4 月		6.0	10.1	2.3	10.1	456	-2.0	-10.5	21.4	2.9	12.8	14.4
5 月		6.0	10.0	2.0	7.4	500	-4.7	-0.1	43.6	-4.8	11.8	14.4
6 月	6.7	6.2	10.6	1.9	7.3	479	-6.1	-9.0	8.5	4.4	11.8	14.3
7 月		6.0	10.2	1.8	3.9	502	-6.4	-12.9	-3.8	-6.2	10.2	12.9
8 月		6.3	10.6	1.3	8.2	520	-3.2	1.4	13.2	0.5	11.4	13.0
9 月	6.7	6.1	10.7	1.9	9.0	420	-10.2	-1.9	27.9	-3.6	11.5	13.0
10 月		6.1	10.0	2.1	8.8	488	-7.4	-1.3	-36.9	0.4	11.6	13.1
11 月		6.2	10.8	2.3	8.8	442	-1.5	4.6	-32.4	-4.6	11.4	13.1
12 月	6.8	6.0	10.9	2.1	6.5	407	-6.4	2.6	21.1	-627.7	11.3	13.5
1 月				2.5	16.1	513	3.1	15.4	5.4	-6.2	11.3	12.6
2 月				0.8		-91	-4.8	38.1	33.3	-242.1	11.1	13.0
3 月	6.9	7.6	10.9	0.9	9.5	239	12.3	19.6	-1.4	1.6	10.6	12.4
4 月		6.5	10.7	1.2	8.1	380	4.2	11.6	42.7	-9.8	10.5	12.9
5 月		6.5	10.7	1.5	7.8	408	5.5	14.6	-5.4	-8.7	9.6	12.9
6 月	6.9	7.6	11.0	1.5	8.8	4289	9.1	16.3	14.3	-2.8	9.4	12.9

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、() 内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。